

## 令和4年度事業報告について

### I 概 要

令和4年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響が排除できず、会員数の伸び悩みとこれに伴う一部業務の受注件数の頭打ちなどにより、契約実績の低下が懸念されましたが、派遣事業も合わせて3年ぶりに前年を若干上回る結果となりました。

年度当初からオミクロン株による感染が拡大と縮小を繰り返しながら、一定のワクチン接種が進んだことで、これまでのような自粛一辺倒のムードから、外出や旅行などに出かけることに対し、徐々に抵抗感が薄らいできたことが伺えるようになりました。

こうした状況のなか、公共施設をはじめ観光や飲食業の営業も通常に戻る様子が見られ、就業依頼も比較的堅調な推移であったことなどから、シルバー事業の年度後半の巻き返しを期待したところ、当センターの令和4年度の事業実績は、前年度比202万円増の7億9,083万円となりました。

また経常収支についても2年連続の黒字決算となりました。これは経常収益そのものは前年度を下回ったものの、諸経費の節減に努めたことに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大により諸事業の縮小開催を余儀なくされた影響で経常費用が節減されたことが主な要因です。

一方で、これまで活動が制限されてきた会員相互の親睦・交流事業や地域単位での活動などはできるだけ再開に努め、感染予防対策を徹底し、できる限り交流や地域での活動を推進していく方針のもとに事業を進めてきました。残念ながらシルバーまつりは3年連続の中止、定時総会は規模を縮小しての開催となりましたが、地区懇談会は参集方式で行う地区が増え、交流事業や講習会への参加も積極的な傾向がみられました。

わが国では高齢化、少子化と人口減少のさらなる進展に伴い、活力ある社会を持続していくため「生涯現役社会」構築に向けた取り組みが進められています。とりわけ年齢にかかわらず働く意欲と能力のある高齢者が活躍できる場であるシルバー人材センターへの期待と役割が大きくなっています。

シルバー人材センターがこうした期待に応えるとともに、就業の依頼に対応していくためには、会員の拡大が急務ですが、コロナ禍の影響もあり全国的に会員数が伸び悩んでいる状況です。そのため全国シルバー人材センター事業協会（以下「全シ協」という）では全国会員「100万人達成計画」を掲げているものの、当面は「コロナ前」の水準に戻していくことを目指すこととしています。

当センターでも、令和4年度の会員数は前年度と比較して56人減少し、年度末現在1,548人という結果になりました。

シルバー人材センターで最も重要なことは、作業事故等を防ぎ安全に就業することです。当センターでは、安全委員会を中心に就業時の事故防止に向けた取り組みを進め、昨年度開催見送りとなっていた「KYT研修」を実施するとともに、法定設置した「衛生委員会」において健康診断の勧奨や派遣就労会員等を対象としたストレスチェックの実施等に取り組みました。

また、社会のデジタル化の進展に伴い、スマホ等のICT機器を活用した情報発信や広報活動が重要となっています。そこで、当センターではシニアパソコン教室と連携し、情報化促進委員会での検討を踏まえ、入会説明会においてLINE公式アカウントの登録を促しながら新規入会者へ積極的にアピールをしました。

## II 事業の実施状況等

### 1 就業機会の拡大

当センターでは、企業の人手不足の解消や、多忙な子育て世帯や高齢者世帯に対する生活支援等、多様化する地域ニーズに対応した新たな就業機会の確保と拡大に努めました。

また、長野県シルバー人材センター連合会（以下「県シ連合会」という）との連携による、国庫補助制度等を活用した「高齢者活躍人材確保育成事業」にも取り組みました。

その他、就業機会の拡充をはじめ、独自事業や福祉・家事援助サービスの拡充、事業の普及啓発活動等を進めました。

#### (1) 国の補助制度等を活用した事業

- ① 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業による就業機会の拡大、派遣事業の推進
- ② 地域就業機会創出・拡大事業で得たノウハウを活かし、空家の適正管理事業や放課後学習支援事業、りんご栽培及び栽培員養成事業の一層の推進
- ③ 高齢者活躍人材確保育成事業では、就業機会・就業者の拡大を目指し、寄せ植え講習といった女性会員向けの企画や、高齢者のデジタルリテラシー向上を目指しスマホ活用術講習を実施しました。

#### (2) 独自事業・自主事業

- ① 独自事業として、シルバーショップえがお、刃物研ぎ、シルバーファーム、門松作り、シニアパソコン教室等の事業の継続と拡充の支援

- ② 「シニアパソコン教室」では、通常のパソコン教室の他、Z o o m講座やスマホ講座を継続して開催。また、ホームページの作成等のニーズに対応できる体制づくりを推進
- ③ 「放課後学習支援」は独自事業として2年経過し、運営が安定
- ④ 門松作りは、原材料の調達が課題となる中、様々な工夫を重ね、例年以上の販売実績を確保

### (3) 福祉・家事援助サービス事業の推進

- ① 介護予防・日常生活支援総合事業等の充実
- ② 高齢者生活援助サービス事業の推進

### (4) 普及啓発活動の推進

- ① ハローワーク等と連携した求職者セミナー等の実施
- ② 広報や地方紙への広告掲載、チラシの作成配布による普及啓発活動の実施
- ③ 会報「広域シルバーまつもと」で会員の活動等を紹介、普及啓発用カレンダーの作成・配布
- ④ ホームページでセンターの情報や互助会の活動を動画で配信
- ⑤ ホームページとリンクしたL I N E公式アカウントでの情報発信
- ⑥ イベントを通じたシルバー事業の周知・啓発（ふれあい広場等）
- ⑦ 普及啓発月間における各地区の一斉奉仕活動を通じたシルバーのP R

## 2 安全適正就業の徹底

全シ協では、「安全は全てに優先する」をモットーとして、全国的に安全適正就業の徹底に取り組ましました。当センターにおける事故発生は減少しましたが、傷害事故ではうっかり事故、賠償事故では刈り払い機での跳石事故が多い状況となっています。

令和4年度は、特に現場での作業開始前のミーティングで危険予知の考え方を活用した安全確認の徹底や、事故の再発防止に向けた検証に力を入れて取り組みました。熱中症対策では、こまめに水分補給と休憩をとることを周知しました。

また、多くの会員が安全への意識を高められるよう、地区懇談会等で安全に対する説明を実施した他、11月には刈り払い機の取扱い講習を実施しました。さらに2月には安全委員会による集合研修「KYT研修」を開催し、主として剪定業務や除草業務、その他共同作業や農業作業、公園管理作業などにあたる会員が一堂に会し危険を予知し、事故を回避するためのトレーニングに取り組みました。

(1) 令和4年度の事故発生状況

合計	14件	(2件減)
内訳	傷害事故	9件 (5件増)
	賠償事故	5件 (7件減)

(2) 安全就業

- ① 作業班の班長を対象とした危険予知研修の実施、刈払機講習会時の意識啓発及び安全就業チラシの配布、作業前の「安全ミーティング」実施の徹底等
- ② 安全委員会によるパトロールの実施（作業現場8か所）、事故原因や改善策検証の実施
- ③ 熱中症の予防に関する会員への周知、啓発
- ④ KYT(危険予知トレーニング)教材の開発と活用
- ⑤ 派遣就労会員を対象に「STOP! 転倒災害プロジェクト」のパンフレットを配布し、転倒事故防止について啓発
- ⑥ 運転業務の安全に配慮し、発注者との調整を実施
- ⑦ 労働安全衛生法に基づく「衛生委員会」の開催、会員への健康診断の勧奨、産業医への健康相談、派遣就労会員等を対象としたストレスチェックの実施

(3) 適正就業

- ① 県シ連合会の適正就業に関する調査結果を踏まえ、請負になじまない就業の派遣への切替え検討や、洗濯業務及び宿直等、専門業法に関連する事項について改善を実施

3 組織体制の充実

(1) 組織体制の充実強化

シルバー人材センターの掲げる「自主・自立、共働・共助」の理念を実現していくためには、仕事だけでなく様々な活動を通じて会員同士が助けあっていくことが重要です。しかし、3年以上に及ぶコロナ禍で、会員相互の交流の場や会員の活躍する機会が減少していることは否めません。令和4年度は可能な限り会員の交流機会の確保に配慮した運営に努めました。

- ① 地域班長会の開催、地区懇談会の実施（参集方式34地区、書面会議方式3地区）
- ② 職群班への加入促進と技術・安全意識向上に向けた取組
- ③ 地域作業班活動の充実・強化、班員の登録推進
- ④ 女性会員の拡大に向けた、女性委員会の企画運営による講座の開催（干支づくり講習会）

- ⑤ 会員の交流の場であり、多くの会員が関わるシルバーショップえがお、喫茶えがおの充実
- ⑥ 事業部会及び総務部会において、最低賃金への対応及びインボイス制度の課題について検討し、理事会において標準作業単価の見直しを実施、事務費率の新年度改定方針について確認
- ⑦ 総務部会において、会員アンケートを実施。会員の意識変化を探り会員増に向けたヒントを探る
- ⑧ 情報化促進委員会が中心となり、ホームページ及びLINE公式アカウントを活用した会員のデジタルリテラシー向上を促進

## (2) 会員の拡大施策

会員の拡大に最も効果をあげている月2回の定例会説明会は、時間を短縮するなどコロナ感染症予防対策を徹底し、予定した回数をすべて実施しました。参加者が多い日には、1階にオンラインで受講できる特設のサテライト会場を設置し、会場内が密にならない対策を講じました。

また、ハローワークが主催する合同説明会等にブースを出展するなど機会を捉えてPRに努めました。

また、県シ連合と連携した「高齢者活躍人材確保育成事業」（国庫補助）は、秋の寄せ植え講習やスマホ活用講座を開催しましたが、2回とも予想を超える参加者があり、若干ではありますが、入会された受講者もみられました。このようなきっかけを入会に繋げていくことが課題です。

### ① 「高齢者活躍人材確保育成事業」（国庫補助）を活用した取り組み

- |                            |       |
|----------------------------|-------|
| ア 花のある暮らしとガーデニング「秋の寄せ植え講習」 | 15名参加 |
| イ スマートフォン活用術講習             | 21名参加 |

### ② 「会員ひとり1会員募集活動」の継続と総会での表彰の実施

### ③ ハローワークと連携し、求職者支援セミナー等でシルバーの活動紹介と入会案内を実施

## (3) 会員の技術向上

除草作業に従事している会員を対象に技術と安全就業の講習会を開催

- ・刈払機取り扱い講習会 11月 18名参加

## (4) 「シルバーふれあい広場」は6月開催のみ

4月、6月、11月の年3回の開催を計画していたシルバーふれあい広場は、6月の「山菜まつり」1回のみで開催となりました。例年4月の野菜苗販売会はシルバーファームの主催で4月28日から5月1日まで実施しました。

#### (5) 関係機関との連携

松本市、山形村やJ A松本ハイランド、松本商工会議所等の関係団体との連絡を密にし、センター事業へのご支援・協力をいただきました。

また、全シ協や県シ連合会が主催するオンラインの大会や研修会等に参加し、情報を的確に把握し、適正な事業運営に努めました。

#### 4 財政基盤の強化・健全化

令和4年度の事業実績は、前年比202万円増の7億9,083万円となりました。請負は減少しているものの、派遣事業分が増加していることから総契約額では前年を上回ることができました。補助金は、高年齢者就業機会確保事業として国から2,174万円の交付を受け、松本市と山形村からは市村を合計して国と同額の2,174万円の補助をいただくことができました。

当センターでは、請負就業の場合には8%、派遣就業の場合は15~20%の事務費を設定していますが、ロシアのウクライナ侵攻とそれに伴う経済制裁によるエネルギー供給を初めとするサプライチェーンに混乱が生じていることや円安のため、燃料や資機材、電気代などが高騰しており、就業に係る諸経費はもとより、センター運営費も厳しさを増しています。加えて令和5年10月からインボイス制度が開始されることもあり、10月請求分以降は事務費率を10%に改定する予定としております。

また派遣事業については、県シ連への事務移行を見据え、令和5年度から事務費率を20%に統一するよう関係各位に調整を行いました。

令和4年度の収支決算については、一部の請負業務が派遣事業に切り替わっていることなどから、事業収入そのものは減収となったものの、前年度に引き続き会議や事業の縮小などにより諸経費が圧縮されたことや、経費の削減努力により、全体の収支では、787万円の黒字となりました。但し、あくまでコロナ感染拡大という背景があつてのことであり、引き続き財政基盤の強化・健全化に向けて検討を進める必要があります。

#### 5 事業実績 (3月末)

契約金額 (派遣事業含む)	790,835 千円	前年比	2,028 千円 (0.3%)
(うち公共請負)	239,447 千円	( //	3.9 %)
( // 民間請負)	356,252 千円	( //	△4.4 %)
( // 一般家庭)	107,903 千円	( //	△2.1%)
( // 独自事業)	23,123 千円	( //	7.6 %)
( // 派遣就業)	64,107 千円	( //	18.9 %)
就業率	82.5%	( //	0.7ポイント)